

内からの表現

「させる表現」から「する表現」へ

校長 岩澤 尚彦

大きな台風が直撃したり曇りや雨の日が多かったりと、さわやかな秋の空はなかなか眺めることが少なかった10月でした。晴れの日、屋外に出て、思い切り身体を動かしたくなります。

天候により、運動会を1日延期し10月20日(日)に実施させていただきました。ご来校いただきましたご来賓の皆様、地域の皆様、各関係機関の皆様には心より御礼申し上げます。また、保護者の皆様には、運動会に向けてのご準備、当日の会場等のお手伝いなど、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。当日は、曇り空のスタートでしたが時折日差しも見られ、風もなく寒くもなく穏やかな天候の中、実施することができました。

代表委員会で決定した「令和最初の運動会 一致団結 赤白ともに 全力尽くして戦おう!!」というスローガンのもとに学校全体で取り組みました。子どもたちの当日の活躍には心を打ち、私だけでなく多くの参会者の皆様からお褒めの言葉をいただきました。

どの学年においても、真剣さと練習を重ねてきたことによる自信に満ち溢れた表情が、演技をする姿に見られました。発表の場と考えれば、当日に意識が向いてしまうものですが、それまでの学年全体や一人ひとりの取組には学習した成果があり、成長があったはずで、その成長が、見ている皆様の感心や感動を生む結果になったのだと思います。

私が見る限り、単に動きを覚えそのまま演じるということだけでなく、動きのよさや楽しさ、曲の良さなどを十分に感じ取り、自分の中で咀嚼したものを表現する。まさに、内からの表現力が伸長されたのだと思います。

また、演技に向けて実行委員を募り、子どもたちがより主体的に取り組めるようにした学年もありました。実行委員となった子どもたちが、映像を見ながら先行して覚え、各クラスで自分たちが教えるなどの取組をしました。学年での練習では、実行委員が練習を進行し、各クラスへ戻った後、「今日の練習はこうだったのでこうしてください。」などの振り返りを進んで行うなど、演技を自分たちのものとして取り組む姿が見られました。

いやいや演技させられているのではなく、まさに自ら「いきいきと演技する」「価値を見出して表現する」「思いが発露して表現に至る」という子どもが多かったのは、そういう事前の学習活動があったからだと思うのです。

このように主体的な学びに向けての学習活動は、運動会に向けての学習においても進められています。今後も、本校の「社会に開かれた教育課程」において、このような学びを大切にしたいと考えています。

- ・さいしょはむずかしかったけど、ほんばんはうまくおどれてうれしかったです。(1年)
- ・「マスカット♪」のとき、笑顔でできていて、自分でもしんじられませんでした。友だちとの心がひとつになった思いでした。(2年)
- ・縄跳びのグループ技で引っかけたけれど、あきらめずに声をかけ合いながらがんばりました。(3年)

- ・エイサーを初めて知って、好きになりました。みんなで心を合わせて、かけ声をかけながら踊れたのがうれしかったです。(4年)
- ・5年生全体が一つの翼になったような感覚を初めてつかめたと思います。(5年)
- ・みんなと団結して一体感のあるソーラン節になってよかったです。(6年)

※子どもたちの振り返りの言葉です。



